

## 優秀賞

### 自然と向き合って

山形県河北町立河北中学校

3年 松田 芽依

私は自然が大好きだ。虫の音や風の音、そして匂い。四季がある日本ならではの自然が見せる表情が本当に魅力的だ。

私の母の実家は、山形市の山寺というところにある。週末になると時々、母と一緒に顔を出しに行く。そこは、周りが山に囲まれていて、猿や鹿、猪などのけものもいる大自然だ。

また近くに、芭蕉が訪れたことで有名な、「宝珠山立石寺」、通称「山寺」とも言われている寺院がある。立石寺は貞観2（860）年に建てられたとても歴史の深い寺院である。

じいちゃんは、そんな魅力的な土地で農家をしていて、主に苺や季節の野菜を作っている。

苺の季節に母の実家へ行くと、じいちゃんは笑顔で、「よく来たな。苺持ってけー。」

と、真っ赤でつやつやした宝石みたいな苺をくれる。私は、じいちゃんの苺が大好きで、一度食べたら、満腹を通り越して何も食べられなくなるくらい食べてしまう。それくらいおいしいのだ。そんな苺のパック詰めを、私は今年から母と手伝っている。つい食べたくなる気持ちをぐっところらえて、宝石たちをパックに並べていく。じいちゃんは簡単そうにするけれど、実際にやってみるととても難しく、大切に育てた苺が私の知らない消費者の手に渡るものだと考えると緊張した。そんな繊細な作業を、迷いのない手つきで進めるじいちゃんを心からカッコいいと思った。

少し慣れてくると、母やじいちゃんがほめてくれてうれしかった。お行儀良く並ぶ苺たちが誇らし気に見えた。暑い中だったが、私は、大きな達成感を味わうことができた。

じいちゃんは、苺のほかに人参や大根、白菜など、さまざまな種類の野菜を作っている。私が小学生の時、ある秋の日、じいちゃんは私と母を自分の畑につれて行った。そこで私は、大きなかぶや大根、人参などの収穫を体験させてもらった。このような経験がなかった私は、泥だらけになりながら夢中になって野菜の収穫をしたことを覚えている。

野菜を収穫した後、じいちゃんは大きな網を持って、畑の近くにある川の水が流れている水路につれて行ってくれた。じいちゃんは、

「イワナをつかまえるんだよ。」

と言い、私はとても驚いたことを覚えている。わくわくしながら水の流れと逆向きに網をかまえ、私は魚がかかるとを待った。しかし、いくら待っても魚がつかまらない。そんな私をみかねて、じいちゃんは私から網を受け取り、短い時間で3匹ものイワナをつかまえた。小さなバケツの中で泳いでいる一番大きなイワナに私は狙いを定め、わしづかみにしてみた。つかんだイワナは大暴れして、私の手から逃げようとした。ぬるぬるとした感触が少し気持ち悪かったが、必死にもがいて逃げようとするイワナの想像以上の力に、強い生命力を感じた。

家に戻ると、じいちゃんは生きたイワナをさばき始めた。私は、その様子を間近で見っていた。まず、腹を裂き内臓を取り除いた。次に、よく洗って串刺しにした。ここまでしても、まだイワナは生きていた。最後に塩を振りかけ、魚焼き器に入れた。焼き終わって、母と一緒にそれを食べると、身がぎっしり詰まっていて、いつも食べる魚と違った野性味を感じ、とてもおいしかった。

こんなたくさんの思い出がよみがえり、じいちゃんの手伝いをしながら、農家をしていて大変だったことを聞いてみた。

「農家は自然との闘いだ。暑い日が続くと作物は弱るし、雨が降りすぎても腐ってしまうから、気象状況をよく見るのが大切だ。」

という言葉が返ってきた。

近年は地球温暖化の影響もあるのか、異常気象が多発し、「例年のような」という言葉は当たり前ではなくなってしまうように感じる。そのような大変な環境の中で、自然と向き合い農家をしているじいちゃんを、心の底から尊敬している。山寺のじいちゃんから私は、さまざまなことを学ぶことができた。自然の恵みや命をいただくことのありがたさ、そんな山寺の自然のエネルギーが私という存在を力強くかたちづくってくれたような気がした。

桜が咲き誇る春。きらきらと輝く新緑の夏。赤や黄色に色づく秋。まるで水墨画のような雪景色の冬。そんな山寺の四季折々の自然が育んでくれるエネルギー。そして、笑顔で私たちを迎えてくれるじいちゃんが大好きだ。今の景色が自然がこれからも続くために、今私たちができること。例えば、3R（リデュース・リユース・リサイクル）や地産地消を心がけることだ。日常生活の小さなことから自然環境を守るための行動を心がけてみようと思う。一人一人の意識や行動がエネルギーとなり、今度は私たちの生きる地球の持続につながると信じて。